

## 検査画像送信→専門医が助言

# 遠隔診断を本格運用

医療ベンチャー、イー・メディカル千葉（千葉市、木下富士美社長）はコンピュータ断層撮影装置（CT）などの検査画像の診断を支援するシステムの本格運用を始めた。病院や診療所が持つ患者の検査画像をインターネットで経由で送ってもらい、協力する約20人の専門医が2日以内に診断しその結果を連絡する。2010年度中に20カ所の契約を目指す。



遠隔画像診断を本格運用するイー・メディカル千葉

## イー・メディカル千葉

### システム契約

### 20カ所目指す

契約先の病院や診療所はCTや磁気共鳴画像装置（MRI）などの患者の検査画像の診断に困った場合、イー・メディカル千葉に送信してもらう。専門医の診断結果を連絡し、助言することで今後の治療方針などに役立つ。このシステムを使えば、大規模の病院は画像の診断などの業務が多忙となった場合の後方支援になる。小規模の病院や診療所の場合、専門医を新たに雇うよりコストを抑えられるという。

病院や診療所が直接契約すると、送信端末のレ

ンタル料など月額6万円の基本料金と一件3000円（CTとMRI）の料金がかる。提携先の医療機器販売の三勢（東京・文京）のシステムを利用すれば、基本料を月額5000円に抑えられる。診断件数の少ない小規模の病院に適しているという。

既に千葉県内の三カ所の病院を含めた全国15病院と契約を結んだほか、関東圏の病院を中心に契約を増やす方針だ。CTやMRIの普及は進んだものの、詳しい診断ができる専門医は少ないのが現状だ。

イー・メディカル千葉は千葉県がんセンターなどに勤務経験がある木下氏が08年に設立した。

### イー・メディカル千葉の診断システムの仕組み

